

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	創価大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ソウカダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
	学部・研究科等名	全学部(経済、経営、法、文、教育、国際教養、理工、看護)
	担当教職員名・役職	長谷部 秀孝・キャリアセンター長
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	209
	受入企業等数	100
	受入企業等名	安藤物産、イトーキ、SMBC日興証券、大林組、大林ファシリティーズ、岡村製作所、オセアニア交流センター、オンワード樫山、紀伊國屋書店、キャリア・맘、共同印刷、協和エクシオ、銀座アスター食品、熊谷組、クリーブ、京王プラザホテル、サカイ引越センター、サコス、サニーフーズ、サミット、サンエス技研、燦クリーン、特別養護老人ホームサンシャインホーム、三和テレム、清水建設、精興社、西武信用金庫、先駆、創輝、大成建設、高砂熱学工業、高見、田中建設、タナチョー、多摩信用金庫、東計電算、トーヨーグループ、東邦ホールディングス 日建設計、日本新華僑通信社、日本ビル・メンテナンス、日本ファイリング、野村證券、八王子市農業協同組合、ファミーラ、富士ゼロックス、フジタ、マルキガス東京、三井住友銀行、八重洲電気、ヤオコー、若洲、大田区役所、川崎市役所、小平市役所、相模原市役所、渋谷区役所、八王子市役所、東村山市役所、町田市役所、NPO法人 はちぎたSC、ヨネツボ行政書士法人
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ,5.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本学が提携しているインターンシップの主な実習内容は次の通り。支店見学や施設見学などの現場見学、営業同行、書類処理やデータ入力などの事務作業、社員との懇談会、実習先企業の業務内容に関する研修を受講、実習先から与えられたテーマについてグループでディスカッションし、プレゼン発表会を実施。その他、サービス業では実際に接客を体験し、現場感覚を学ぶ機会を作っている。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次~4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1単位、2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本学では、5日間以上の実習で1単位、10日間以上の実習で2単位付与している。単位認定を希望する学生は、次の条件を満たすことを必須としている。①インターンシップガイダンスに参加②事前に目標設定研修、グループワーク研修、マナー研修、ES対策講座、面接対策講座に参加③実習生同士で振り返りを行い、学びを深める実習報告会に参加④志願書、実習計画書、実習先研究報告書、実習報告書の提出。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している,3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ中に、教職員が企業等に赴き、企業担当者と面談を実施している
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前研修は学年別に実施している。1・2年生に対しては目標設定研修、グループワーク研修、ビジネスマナー研修を行っており、3年生に対してはES対策講座、面接対策講座、業界研究講座、ビジネスマナー研修を実施している。また事前課題として、志願書、実習計画書、実習先研究報告書の作成を課している。

	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後研修では、学生同士が実習内容の振り返りを共有するグループワークを実施している。共有する内容は、実習前に設定した目標が達成したか、実習で見えた自分の強み・弱み、実習を通して内的・外的キャリアがどのように変化したかなど、学生が実習での学びをより深化させる内容にしている。共有後は、今後の学生生活を4年間マップに基づいて計画を立て、実習報告書の作成を課している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	全企業ではないが、実習中、または実習後にインターンシップ担当の教職員が赴き、学生の様子や大学との連携、要望などのヒアリングを行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前研修にて、目標設定研修や実習計画書の作成を行ない、インターンシップを通しての自身の目標設定を行なっている。実習後、事後研修のグループワークを通し、インターンシップの目的・目標、実習内容、実習で学んだこと・気づいたこと等を共有し、自身の目標達成度の確認を行なっている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実習期間5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	大学から企業等に5日以上での受け入れを依頼しており、日数は企業によって異なるが、原則、連続した5日以上で実施している。最長は約1か月。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入企業の担当者に、大学から評価フォーマットをお渡しし、実習中の学生を5段階で評価してもらおうと共に学生への所感を依頼している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	創価大学
	担当部署名	キャリアセンター
	担当者役職名	係長
	担当者氏名	岩岡 賢一
	電話番号	042-691-3523
	メールアドレス	careercenter@soka.ac.jp